

武蔵工業大学後援会誌[マイコム]

MI-COM

no. 35 2007.1

後援会副会長挨拶……p1

平成18年度「大学と父母との連絡会」取材レポート……p2

平成18年度 就職動向と支援……p5

キャンパス Spot⑬……p7

クラブ活動紹介②④……p9

Campus Topics……p13

平成18年度「大学と父母との連絡会」実施結果……p15

写真：第77回 MI-TECH祭



後援会副会長挨拶



武蔵工業大学後援会副会長

榎本 英雄

企業が求める人材

原稿の依頼を受けたとき私の大学時代について書こうと思ったのですが、大学受験で精力を使い果たして、残念ながら勉学についての記憶が定かではありません。よく考えると大学では学問以外の人生勉強に励んだようでした。私の大学時代は北海道の山を歩き回ったり山小屋でのヒュッテンレーベン、流水に乗って知床岬までの放浪もしたり、学園紛争の時は1年休学して欧州、アジアを貧乏旅行をしたりといろいろなことをしました。こういう体験は体力旺盛な若いときしか出来ませんし、その頃の体験は水が土にしみ込むように自我の育成に役立ちます。在学中は人間の幅を広げるいろいろな経験をつむことが後の人生に生きてくるようです。

私は横浜で経営者の端くれとして日々楽しく頑張っている昨今ですが、経営者として最近感じることは学校の勉強が出来る人と社会で通用する人とはちょっと違うということです。会社で求める人材は技術者として有能だけでは役立ちません。企業では技術者としての有能さに加えて仕事に対する意欲・自分の意見をもっている・みんなとうまくやれる・体力があるということが求められます。それと『疑問を持つ』ということが大切です。ニュートンも木からリンゴが落ちるのを見て疑問を持ったように、なぜという疑問を持ち続けることが大切です。その疑問に対してどうしてなのかと勉強する姿勢を大学生活で学ぶべきなのです。ですからみなさんは大学では勉強はもちろんですがそれ以外の部活等も含めて大いに活動し社会人としての基礎的な人格を身に付けていただきたいと思います。後援会はサポーターとしてみなさんを援助しますので有意義な学園生活を送ってください。

毎年の夏休み期間、
後援会と大学の共催により実施される
「大学と父母との連絡会」。
平成18年度も、全国各地で行われ、
9月30日(土)の世田谷キャンパス(工学部)と
横浜キャンパス(環境情報学部)での
開催をもって幕を閉じました。
父母のみなさんの感想などを交えながら、
両キャンパスの当日の様子をレポートします。



※ 世田谷キャンパスの全体説明会



※ 中村英夫学長



※ 相模後援会長

教育環境・ビジョン・就職動向など 大学に対するご父母の疑問や心配が氷解

7月15日(土)の沖縄・那覇会場に始まり、9月30日(土)の
世田谷キャンパスと横浜キャンパスの大学会場で掉尾を飾っ
た平成18年度の『大学と父母との連絡会』。この会は、単に
大学から説明を受けるだけの“報告会”ではありません。ご
自分の子どもたちが、どんな環境で、どんな学問を、どんな先
生たちから、どのようにして学んでいるのか、あるいはゼミや
研究室の様子、就職状況など、日頃から気になっているあれ

これを質問し、先生や事務担当者、卒業生から直接回答し
てもらえる、その名の通り大学と父母、双方向の“連絡会”な
のです。とくに、実際のキャンパスに足を踏み入れ、学びの場
を体感できる世田谷キャンパスには556世帯、横浜キャンパス
には230世帯と、厳しい残暑をものともせず、たいへん多くの
ご父母のみなさまが参集されました。

※ 参加されたご父母の方々の感想

世田谷 キャンパス

※ 安部 勇仁君(機械1年)のご両親
「自負をもって学んでほしい」という学長のあ
いさつに感動。大学との絆を感じられる、有
意義なひとときとなりました。



※ 菊地 孝作君(建築3年)のご両親
近所に住んでいますが、説明会の参加は今
回が初めて。常々見たいと思っていた図書
館のハイテクさに驚きました。



※ 淵田 裕基君(電気電子情報2年)のお父さん
明るく、オープンな雰囲気の大学ですね。こ
この設備を十二分に使いこなして学習し、し
っかり力をつけてほしいと思います。



※ 浅野 裕史君(電気電子情報3年)のお父さん
気になるのはやはり就職のこと。今日一日で
企業の採用状況など、最新の情報を確認で
きたので、大変参考になりました。



※ 勝俣 洋介君(システム情報1年)のご両親
息子が入学したばかりなので、どんな環境で
学んでいるか興味津々でした。きれいな学食
や図書館に感心しました。



※ 杉本竜一君(機械2年)のお母さん
たった半日の連絡会でしたが、大学の雰囲
気や就職状況など、知りたかったことをたく
さん教えられました。



※ 小野 剛嗣君(機械システム4年)のご両親
毎年参加していますが、今回はとくに就職決
定の感謝を込めて参りました。マンドリンの
音色に胸が熱くなりました。



※新図書館見学では、雑誌を手取る姿も（世田谷）



※学科別の説明会ではコンピュータを用いて分かりやすく解説（機械システム／世田谷）



※マンドリンクラブの演奏会も行われた（世田谷）

世田谷キャンパスの受付開始は午前11時。午後1時から始まる全体説明会の前に、まずはみなさん腹ごしらえです。SAKURA CENTER#14内にある学生食堂CANTEEN RARAで、陽光がふんだんに射し込む明るい空間の中、栄養バランスとボリュームに配慮されたメニューに舌鼓を打ちます。「お腹が空いていなかったのかフェのカパンにしましたが、これが大学内か、と驚くほど焼きたてホカホカのおいしさでした」との声も。

その後、2005年に竣工した図書館見学会。大学図書館としては有数の充実したIT設備や、膨大な蔵書、そして空中庭園を配した斬新なレイアウトにみなさん圧倒されたようです。

全体説明会では、中村学長、安田工学部長、相模後援会長の順に講壇に立って説明。学長は、新設される知識工学部、生

体医工学科の紹介に加え、「現在の私学にはほとんど見られない原子力安全工学科など、工学を中心とした新たな専門学科を創設し、将来的には総合大学を目指していきたい」などのビジョンを語り、続く安田工学部長が学習指導や就職指導などについて、相模後援会長が後援会の活動方針などについて解説。参加者の多くは熱心にメモを取りながら聞き入っていました。

午後2時から、各教室に分かれて、学科・学年別の懇談会を実施。卒業までのカリキュラムや、学科の目的などが説明された後、活発な質疑応答が繰り返されました。なかでも就職・進路に対する関心が最も高かったようです。

一方の横浜キャンパスでは、午前10時30分に受け付けを開始。配付資料を真剣に読み込む方や、校舎やモニュメントを携帯電話のカメラにおさめる人たちの姿が、キャンパスに彩りを添えていました。10時30分から始まった全体説明会では、学長、増井



※全体説明会（横浜）

※小原 恵介君（環境エネルギー1年）のお父さん
就職状況や研究室の様子を知りたくて参加。学長や先生方の細やかな指導ぶりをかいま見ることができました。



※高橋 準君（機械システム1年）のご両親
清潔で素敵な図書館や学食に、自分たちの頃と比べ隔世の思いを強くしました。カフェテリアで食べたパンのおいしかったこと！



※松島 和貴君（機械システム1年）のご両親
入学式でも強く感じましたが、学生への対応が親切ですね。保護者への説明もとても丁寧なので安心してます。



※北山 洋輔君（建築1年）のお父さん
学部長が中退率なども率直に説明してくれたので、好感を持ちました。親子の会話を大切にしたいと思います。



横浜 キャンパス

※赤川 誠君（情報メディア3年）のお父さん
学校の雰囲気を感じてできる有意義な機会でした。最初にメディアセンターを見たときは、新鮮な感動を覚えました。



※佐藤 俊紘君（情報メディア1年）のご両親
先生や事務の方々が、本当に一所懸命なことを実感。情報メディアがどんな学問なのか分かったのも収穫でした。



※富樫 謙介君（環境情報1年）のお母さん
就職担当者の「勝ち組になるには、自分を表現できる能力が大切」という言葉に納得。今度息子に話してあげます。





平成18年度の就職動向と支援



身近に迫ってきた団塊の世代の大量退職問題や、採用抑制から生じてきた人員構成の歪みの問題から「量も重視」といった採用スタンスになってきており、企業の新卒採用環境はかなりの割合で好転しています。とは言え、学生の能力・適性・意欲・熱意を重視する厳選採用に変化はなく、近年社会問題化されているミスマッチによる早期離職を是正するために、様々な手法を用いて採用試験を課しております。一例をあげるならば、①目的意識にウエイトを置いた職種別・事業部別の採用活動 ②エントリーシート(学生時代の取り組み、自己PR、志望動機など)での足切り ③一部の大手企業による採用直結型インターンシップ(就業体験)の導入 などであります。企業の採用活動のキーワードは「早

期化」「厳選化」「多様化」であり、そのキーワードに対処すべく本学就職課および学生・就職センターも就職支援に力を入れております。

そのような採用環境の下、本学の就職希望者における内定率は、きめ細かい就職指導・支援(右頁 就職・進学活動スケジュール参照)やOB・OGリクレーターによる積極的な採用サポートによって、学生個々の就職意識が向上したこともあり、それぞれ工学部88.8%、大学院工学研究科93.8%、環境情報学部84.5%、大学院環境情報学研究科75.0%という好結果を収めることができ、文部科学・厚生労働両省の調査(平成18年10月1日現在)66.4%を大きく上回る結果となりました。



平成18年度求人就職内定状況(平成18年12月1日現在)

	学科・専攻	項目	就職希望者	内定者	内定率(%)	進学希望者
工 学 部	機械工学科		86	82	95.3	28
	機械システム工学科		67	66	98.5	26
	電気電子情報工学科		72	66	91.7	38
	電子通信工学科		59	53	89.8	43
	コンピュータ・メディア工学科		52	45	86.5	29
	建築学科		88	62	70.5	39
	都市基盤工学科		82	73	89.0	16
	システム情報工学科		90	82	91.1	28
	環境エネルギー工学科		27	24	88.9	25
	小 計		623	553	88.8	272
大学院 工学研究科	機械工学専攻		19	18	94.7	0
	機械システム工学専攻		27	27	100.0	0
	電気工学専攻		77	75	97.4	1
	建築学専攻		25	17	68.0	1
	都市基盤工学科		19	18	94.7	0
	システム情報工学専攻		18	18	100.0	0
	エネルギー量子工学専攻		23	22	95.7	2
	小 計		208	195	93.8	4
	合 計		831	748	90.0	276
環境情報学部	環境情報学科		181	155	85.6	18
	情報メディア学科		225	188	83.6	11
	小 計		406	343	84.5	29
大学院 環境情報学研究科	環境情報学専攻		20	15	75.0	1
	合 計		426	358	84.0	30



平成18年度就職内定先企業等／資本金順上位50社(平成18年12月1日現在)※数値は就職内定者数

工学部・大学院工学研究科			環境情報学部・大学院環境情報学研究科		
NTTDコム……………1	マツダ……………3	村田製作所……………1	三井住友銀行……………1	イオン……………2	東急エージェンシー……………1
東京電力……………3	日本IBM……………1	沖電気工業……………2	三菱東京UFJ銀行……………1	日本通運……………1	日本ビューレットバックカード……………3
日産自動車……………4	ブリヂストン……………3	中日本高速道路……………1	NEC……………4	楽天……………2	NECソフト……………3
ソニー……………2	スズキ……………8	石川島播磨重工業……………2	日立製作所……………2	コスモ石油……………1	ヤフー……………3
トヨタ自動車……………1	京セラ……………1	大林組……………1	東芝……………6	コナミ……………1	JCB……………1
NEC……………1	大日本印刷……………2	セイコーエプソン……………2	明治乳業……………1	日立ソフトウェアエンジニアリング……………4	遠州鉄道……………1
富士通……………2	大成建設……………8	竹中工務店……………1	NTTコミュニケーションズ……………1	日本ビクター……………1	リクルート……………1
日立製作所……………7	JR東海……………3	バイオニア……………2	シャープ……………1	サントリー……………1	ぐるなび……………3
東芝……………8	大和ハウス工業……………1	ヤマハ発動機……………1	JR東日本……………1	カプコン……………1	みずほ情報総研……………1
三菱重工業……………1	凸版印刷……………2	オリンパス……………3	NECネットエスアイ……………6	TIS……………2	ヤマザキナビスコ……………1
松下電器産業……………1	JR西日本……………1	総務省統計局……………1	積水ハウス……………2	インテック……………2	読売新聞社……………1
JR東日本……………2	全日空……………2	京都府庁……………1	NTTデータ……………2	富士ゼロックス……………1	横須賀市役所……………1
積水ハウス……………2	本田技研工業……………7	横浜市役所……………2	マツダ……………1	IIJ……………2	日本郵政公社……………1
三菱電機……………4	鹿島建設……………2	高崎市役所……………1	大日本印刷……………1	小糸製作所……………1	日本銀行……………1
キャノン……………10	清水建設……………2	東京消防庁……………1	東京急行電鉄……………1	オリエンタルコンサルタンツ……………1	(財)日本生態系協会……………1
富士重工業……………3	日野自動車……………6	青森県警察本部……………1	全日本空輸……………1	理想科学工業……………1	(財)日本品質保証機構……………1
NTTデータ……………1	日本通運……………2		凸版印刷……………3	ベネッセコーポレーション……………1	



就職・進学活動スケジュール

●工学部

全学年対象	3年生 (進路についてより具体的に考える)	4年生 (就職・進学活動の本番です)
11月 ●公務員ガイダンスおよび講座説明 12月 ●公務員試験受験対策講座 12～6月 ●公務員試験模試 (各月1回)	4月 △進学予定者対象の進学説明会 △図書館などで大学院の各専攻内容や入試問題等を検討 6月 ◎リクルート就職講演会 ▲他大学または留学先より資料を取り寄せ情報収集活動開始 8月 ◎インターンシップ等に積極的に参加 9月 ◎各学科就職ガイダンス (第1回) 10月 ◎Uターン就職ガイダンス ◎就職講演会 (就職活動全般) ◎ // (自己分析) ◎ // (業界研究) ◎ // (エントリーシート・論作文) ◎適性検査 (職業適性) ●公務員説明会 11月～ ◎就職試験対策 (SPI・論作文・GAB・CAB) ◎自己分析・筆記試験対策 ◎学内業界研究会 12月 ○業界・企業研究、エントリー ●公務員試験対策集中講座 ●公務員試験模試 (6月まで各月1回) ◎学内業界研究会 1月 ◎各学科就職ガイダンス (第2回) 2月 ◎公開模擬面接 ◎就職試験対策 (模擬面接) ◎学内企業研究会 ●国家公務員採用試験申込書入手 3月 ◎学内企業研究会	4月 ◎各学科就職ガイダンス (第3回) ◎就職試験対策 (模擬面接) ◎学内での希望調査及び推薦者決定 △進学予定者対象の進学説明会 ▲指導教授と相談の上、進学先の検討 ●国家公務員採用試験申込書提出 ●地方公務員採用試験申込書入手 4～6月 ○採用試験 (3月から開始の企業あり) ◎採用内々定 ●地方公務員採用試験申込書提出 5月 △大学院入学試験 (A日程) 募集要項入手・願書提出 ●国家公務員採用試験 (1次) 6月 △大学院入学試験 (A日程) ●国家公務員採用試験 (2次) ●官庁訪問 (国家公務員) ●地方公務員採用試験 (1次) 7月 ●採用内々定 (国家公務員) 7～8月 ●地方公務員採用試験 (2次) 8月 ▲△大学院入学試験 (B日程) 学生募集要項入手・願書提出 ●地方公務員採用試験合格発表 (翌年1月頃までに内定) 9月 ▲△大学院入学試験 (B日程) 10月 ○採用内定 ◎学内での採用内定報告手続 1月 ▲△大学院入学試験 (C日程) 学生募集要項入手・願書提出 2月 ▲△大学院入学試験 (C日程) 3月 卒業式
1・2年生 (進路・勉強方法を考える) 4月 ◎△▲自己発見レポート (1年生) ◎△▲自己プログレスレポート (2年生) 5月 ◎△▲自己発見レポートフォローガイダンス ◎△▲自己プログレスフォローガイダンス 6月 ◎△▲プレ就職講演会 8月 ◎インターンシップ等に積極的に参加		

自己の適性に基づいて家庭で協議

●環境情報学部

全学年対象	3年生 (進路についてより具体的に考える)	4年生 (就職・進学活動の本番です)
5～12月 課外英会話講座 (40分/日・年間100回) 8月 ◎初級シスアド集中講座 (5日間) ◎基本情報処理集中講座 (7日間) ◎TOEICテストスコアアップ講座 (7日間) 9月 ◎SPI対策講座 (2日間) ◎公務員・SPI対策講座 (11日間)	4月 △図書館などで大学院の各専攻内容や入試問題等を検討 ◎就職準備ガイダンス① ◎職業適性検査 ◎就職講演会① (オープニングセミナー) ◎就職講演会② (職業観) ◎就職講演会③ (自己分析) ◎就職講演会④ (エントリーシート・論作文) 5月 ○職業適性検査 (キャリアフォーカス) ◎就職実践模試 (スタート) ▲公務員試験対策ガイダンス ◎インターンシップガイダンス ◎ES攻略テスト ◎就職講演会⑤ (リクナビ) 6月 ○就職講演会⑥ (業界研究) ◎就職講演会⑦ (職種事例研究) ◎学内業界研究会 (全9回・各業界代表的企業約20社を招聘) 7月 ◎△▲キャリアアプローチ ◎OB座談会～社会人からのアドバイス ◎就職準備ガイダンス② ◎エントリーシート攻略テストフォローガイダンス 8月 ◎インターンシップ等に積極的に参加 9月 ◎就職準備ガイダンス③ ◎就職講演会⑧ (就活準備) ◎文章力養成講座 (全4回) 9～10月 ◎進路希望面談 (3年生全員対象) 10月 ◎就職体験報告会 (4年生体験談) ◎就職準備ガイダンス④ 10～11月 ◎学内業界研究会 (各業界代表的企業約20社を招聘) 12月 ◎ビジネスマナー講座 ◎筆記試験模試・対策セミナー ◎面接対策セミナー ◎グループディスカッションセミナー 1月 ◎グループディスカッション演習 2月 ◎就職講演会⑨ (総括) ◎就職直前ガイダンス ◎横浜キャンパス学内企業研究会① (代表的企業約100社を招聘) ◎模擬面接講座 (全5回) ●国家公務員採用試験申込書入手 3月 ○世田谷キャンパス学内企業研究会① (代表的企業約120社を招聘)	4月 ◎就職ガイダンス (求人状況・活動心得等) ◎学内での希望調査及び推薦者決定 ▲指導教授と相談の上、進学先の検討 ●国家公務員採用試験申込書提出 ●地方公務員採用試験申込書入手 2～5月 ○採用試験 (年内から開始の企業あり) ◎採用内々定 ●地方公務員採用試験申込書提出 5月 就職ガイダンス (活動アドバイス) 学内企業研究会② △大学院入学試験 (A日程) 募集要項入手・願書提出 ●国家公務員採用試験 (1次) 6月 △大学院入学試験 (A日程) ●国家公務員採用試験 (2次) ●官庁訪問 (国家公務員) ●地方公務員採用試験 (1次) 7月 ●採用内々定 (国家公務員) 7～8月 ●地方公務員採用試験 (2次) 8月 ▲△大学院入学試験 (B日程) 学生募集要項入手・願書提出 ●地方公務員採用試験合格発表 (翌年1月頃までに内定) 9月 ▲△大学院入学試験 (B日程) 10月 ○採用内定 ◎学内での採用内定報告手続 1月 ▲△大学院入学試験 (C日程) 学生募集要項入手・願書提出 2月 ▲△大学院入学試験 (C日程) 3月 卒業式
1・2年生 (進路・勉強方法を考える) 4月 ◎△▲自己発見レポート (1年生) ◎△▲自己プログレスレポート (2年生) 5月 ◎△▲自己発見レポートフォローガイダンス ◎△▲自己プログレスフォローガイダンス 8月 ◎インターンシップ等に積極的に参加 10月 ◎△▲就職講演会		

自己の適性に基づいて家庭で協議

◎就職希望者 (○民間企業希望者、●公務員希望者)、△本学大学院進学希望者、▲他大学大学院進学希望者 (留学含む)

絵で見る キャンパス SPOT ⑬ — 世田谷キャンパス 16号館／機器分析室&LL教室の巻 —

世田谷キャンパスの16号館には、1階に『機器分析室』、4階には『LL教室』があります。物質の構造を原子レベルで精密に分析できる各種最先端装置を備えた機器分析室は、工学研究&教育のかなめともいえる存在。一方のLL教室は、グローバル化する社会の中でもはや必須となった英語力を効率的に高めてくれる場です。今回のキャンパスSPOTは、この重要な2つの施設の概要と、活用風景のひとこまをご紹介します。

2003年に3度目のリニューアルを果たし、最新のCALLシステムを導入したLL教室。CALLとはComputer Assisted Language Learningの略語で、発音やヒアリングの練習を行う従来のLL機能を、コンピュータとネットワークでサポートするものです。これにより、インターネットに接続して海外のニュース番組をリアルタイムで視聴したり、分からない単語が出てきたら辞書ソフトで瞬時に検索できるなど、語学教育を飛躍的に効率化できるのです。



LL教室の責任者は、教育研究センターの秋山義典助教授。「最もすぐれたシステムを導入したのは、それだけ英語教育が大切であるから。英語でのコミュニケーションは、エンジニアにとっても必要不可欠な能力なので、大学全体で英語力の向上に力を入れています」

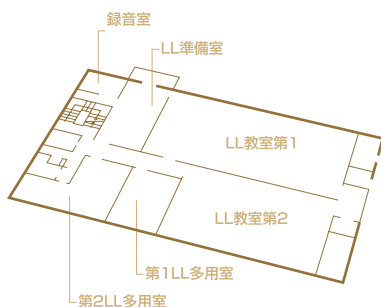


建築1年の高梨亮君は「英語は苦手」と本音をぼろり。「でも、LL教室での授業は、ビジュアルで分かりやすいから、入学前より力が付いたみたいです」



「高校にもLL教室はありましたが、PCと連動しているなんて、やっぱり大学は違いますね」と感心しきりな杉原由起さん（建築1年）。「とくに『自学自習*』の時間は、自分のペースでスキルアップできるので大満足です」

角田光さん（建築1年）は「英語は高校時代から得意科目。でも、実際にネイティブと話すときに通用するかどうか……」とちょっぴり不安げ。「この教室でしっかり学習します」と決意も新たでした。



4階にはLL教室が2室あります。こちらは定員60名の第1教室。講義形式にレイアウトされた全席にはPCが完備され、モニターに先生のコンピュータと同じ内容が表示されます。講壇の後ろには巨大スクリーンも装備。ただいまの時間は、工学部1年生の必修科目「Communication Skills」の授業中です。



工学部1年生は、全員が必修科目の「Communication skills」を履修します。この科目では、単位取得の条件として、50分の自学自習を15回行わなければなりません。これは「LL教室の空き時間を有効活用するとともに、学生に主体的な語学学習の機会を設けてもらうため（秋山助教授）」のもの。学生たちは毎回50分間、用意されたテキストに従い、自分の能力レベルに合わせた自習を行います。分からないことがあれば、サポーターの大学院生が丁寧に教えてくれるので、無理せず自然に英語力が高まります。

LLのことならどんなことでも即答が返ってくる教室の生き字引、小久保育子助手。やさしく丁寧なアドバイスには定評があります。「せっかく素晴らしいシステムが入っているのだから、みんなに活用してもらい、英語力をアップしてもらいたいですね」



こちらは48名収容のLL教室第2。第1教室と違って、アイランド型のレイアウトを採用。学生同士、また教員との距離感をなくし、コミュニケーションを取りやすいように配慮しています。ただいま自学自習中です。



自学自習の時間には、教員のかわりに大学院生のアルバイトがサポート役に入ります。左の五十嵐信貴君（機械工学専攻博士前期2年）は「できるだけ分かりやすく説明するよう心がけています」。隣の広井章人君（都市基盤工学専攻博士前期1年）は、「入学したばかりの1年生には、大学生活に早くなじんでほしいですね」。二人とも良き兄貴ぶりを発揮しています。

4階には2つの教室の他、英語の自習や、少人数の授業などで使用される『多用室』が2室あります。こちらの『第1多用室』には、カセットテープ、ビデオ、DVD、ヘッドホンなどが装備されたブースが6つ。ソフトの貸し出しは不可ですが、準備室に洋画のDVDなどが用意され、学生の自主的な英語学習をサポートしています。





1F 機器分析室



1963年に透過電子顕微鏡が導入されたのが、『機器分析室』のはじまり。その後、続々と時代を先取りする分析機器が増設され、'83年の16号館新設と同時に現在のスペースに移転しました。2005年度に導入された最先端の透過電子顕微鏡をはじめ、電界放出型走査電子顕微鏡、大型蛍光X線分析装置など、新素材や新技術の開発に欠かせない精密な分析を行える12種もの大型装置を装備。他大学や企業の施設をも凌駕する本学自慢のスポットです。

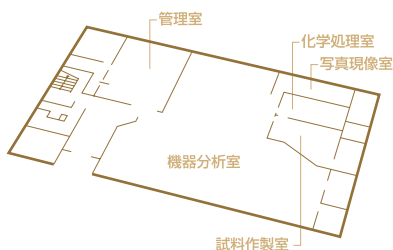


機器分析室の責任者、吉田明助教授。空間レイアウトを、部屋全体が見渡せる風通しのいいオープンスペースとしたのは先生の発案です。「ここは全学の共同利用施設。教員の研究に使われるだけでなく、大学院生や学部生の実験実習もサポートしています。外部機関からの受託研究や共同研究も活発です」

左奥から宮下雅俊君（電気電子情報4年）、吉田先生、根本幸大君（電気工学専攻博士前期1年）、池上雄太君（電気工学専攻博士前期1年）、富永隆一朗君（電気電子情報4年）。直径数 μm のマイクロディスクを『電界放出型走査電子顕微鏡』で拡大し、加工精度を確認中。「光デバイスと半導体デバイスの融合を目指しています（根本君）」。超小型にして高速で大容量、低電力の“夢のデバイス”だそうです。



『単色X線光電子分析装置』を使用している正木隆浩君（電気工学専攻博士前期1年）と渡邦男君（電気電子情報4年）。「この装置が置いてあるのは、東北大学などごく一部の大学のみ。これを使って試料をたんに分析し、より効率的なプリント基板を実用化したい」と意気込みます。



「髪の毛のキューティクルを見てみたい、といった素朴な興味で利用しても構いません。工学は好奇心から発展するのですから」そう語るのは、吉田先生と二人で分析室を切り盛りする新藤恵美技士。「他に先駆けて『ライセンスオペレータ制度*』を導入するなど、利用者本位の運営を心がけています」今隆太君（機械4年）は、卒業研究の真っ最中。特殊な元素であるスカンジウムとアルミの合金を『X線回折装置』で分析しているところです。「スカンジウムが入ることで、アルミの剛性が増すなど、性質が変化するんです」



最先端の分析装置で精密な分析を行うためには、下準備も大切です。機械4年の鈴江洋祐君は、『透過電子顕微鏡』の試料とするため、スカンジウムとアルミニウムの合金を手作業で研磨中。この作業をなんと1ヶ月も続けているそうです。「機械でも研磨できますが、より精度の高い検査をするには人間の手が一番」なんですって。左の写真が透過電子顕微鏡。私学では武蔵工大にしかありません！



鉄に含まれる微量元素の割合を特定するため、『蛍光X線分析装置』で標準試料を分析している市原裕一君（環境エネルギー4年）。「標準試料を分析しておかないと、研究は先に進みません」とのこと。



『微小部電子走査自動分析』で、鉄製品の試料から微量元素の分布を調べているのは、エネルギー量子工学専攻博士後期1年の加藤将彦君。「2000年前の遺跡で発見された板状鉄製品の組成を分析しています」。これが鉄の産地を推定するための貴重なデータになるそうです。

画期的な『ライセンスオペレータ制度*』

ライセンスオペレータとは、本学機器分析室にある各装置の使用法や分析法を熟知した人のこと。教職員でも、学生でも、装置に習熟した人にはライセンスが発行されます（装置ごとに発行）。ライセンスオペレータになると、吉田助教授や新藤技師の手を借りずに装置を使用することが可能。少ないスタッフ数をカバーするとともに、使用者の利便性を考慮した画期的な制度です。



琵琶湖の空に夢を乗せて羽ばたく「航空研究部」と、
横浜祭成功のために一途な情熱を注ぐ「Y.F.A.」。
今回ご紹介する両団体は、いずれも大きな目標に向かってばく進中！

いつの日か『鳥人間コンテスト』の優勝を目指して！？

航空研究部



顧問：大谷眞一（機械システム工学科教授）
学生責任者：長澤健一郎（機械システム工学科3年）
部員数：30名

主な活動

- 4月 お花見
新歓コンパ
春の学生交流会
- 6月 テストフライト
- 7月 鳥人間コンテスト
- 10月 モデルロケット大会
秋の学生交流会
- 11月 MI-TECH祭
- 12月 羽田機体整備工場見学
- 3月 追い出しコンパ



第30回
「鳥人間コンテスト選手権」

『鳥コン』は結果ではなく、 参加することに意義がある！

毎年7月に琵琶湖畔で開催される『鳥人間コンテスト選手権大会（通称、鳥コン）』。自家製の飛行機で飛行距離やタイムを競い合う、まさしく鳥人間たちの頂上決戦の場です。2006年、われらが『航空研究部』は、栄えある30回記念大会の人力プロペラ機ディスタンス部門に名機『アクト』を駆って参加しました。記録は14.02mと、15チーム中13位という結果に終わりましたが、実はこの大会、エントリー資格を得るだけでも大変なのです。しかも、出場する大学チームの中には、自前の滑走路を所有して、『鳥コン』に向けて日夜テスト飛行を繰り返す猛者もあり。そんな強豪ひしめくなかであって、部員数も、資金面でも、また設備的にも、決して恵まれているとはいえない航空研が見せたムサコー魂は賞賛に値するのではないのでしょうか。

文化団体連合に所属する航空研究部の創設は20年前。『鳥コン』へのエントリーを目標に活動し、1992年には念願かなって初出場を果たしました。そのときの飛行距離は7m30cm。以来、一時期を除いて、ほぼ2年おきに出場を果たしています。

設計は前年の秋から開始されます。今回『アクト』を設計し

た河野高志君（機械システム3年）は、「少しでも長く飛ばせる機体を作りたいかった。作業に没頭して、いつの間にか朝になっていたことが……」と振り返ります。図面3枚と設計コンセプトを主催者に提出して、厳正な審査の末にエントリーが認められると、それからは部員総出で飛行機の製作がスタート。骨組みには軽量堅牢なカーボン素材のCFRPを用い、そのほかスタイロフォームやスチレン、パルサなどでボディを装います。こうして総重量約52kg、幅29.6m、全長9mの人力プロペラ機の仮組みが終わったのは、大会間近の6月下旬のことでした。

「多摩川グラウンドや桶川の飛行場を借りてのテスト走行では、機体の一部が破損するなどアクシデント続出でした（部長の長澤健一郎君）」。琵琶湖に移動しての大会前日は、徹夜で最後の調整を行い、そして本番当日。フライトへのカウントダウン……テイクオフ……失速……墜落……。OBや関係者たちのため息と悲鳴とが交錯する中、放心状態の部員全員の胸の内に、「へとへとだったし、眠かったし、鳥にもなれなかったけど（長澤君）」、徐々に何かやり遂げた充実感がこみ上げてきたそうです。



📌 テスト飛行はトラブル続出



📌 モデルロケット大会

📌 飛行機だけではない！ ロケットだって飛ばします

航空研のメインテーマは、もちろん『鳥コン』ですが、ほかにも特筆すべきイベントがあります。そのひとつが『モデルロケット大会』。これは、バルサ材や紙でできた全長50cmほどの模型ロケットを、火薬と発火装置を用いて空高く発射するというなかなか本格的なもので、日本での知名度はあまり高くありませんが、海外ではかなりポピュラーな競技だそうです。航空研は、年に1度開催される全国大会に、ここ最近では毎年出場しています。

「50機くらい参加して、高さや、パラシュートでの滞空時間、着地の正確さなどを競います」と、モデルロケットのことになると話が止まらない佐野厚君（環境エネルギー2年）。それもそのはず、2005年の大会では3位入賞を果たした本邦モデルロケット界の

第一人者（自称）なのです。このモデルロケットを飛ばすには専用のライセンスが必要となりますが、航空研の部員はほとんど全員ライセンス保持者。今後は団体優勝を目指します、と声を揃えて力強く語ってくれました。

ほかにも、『鳥コン』で知り合った他大学との交流会に参加するなど、活発な活動を繰り広げる航空研。今後の抱負は、との問いに、「まずは次の第31回『鳥コン』に参加できるようがんばる」と語ってくれたのは、次期パイロットの大役を務める青柳光昭君（電気電子情報2年）。「少なくとも飛行距離1kmを目指します」

がんばれ航空研。鳥人間と言われるその日まで！



部長の長澤健一郎君（機械システム3年）は「この1年で“忍耐”の意味を悟りました」とボツリ



機体の設計と会計をこなした河野高志君（機械システム3年）。「鳥コン」に出場できて最高！」



青柳光昭君（電気電子情報2年）は、『鳥コン』の次期パイロット役。ロードバイクで特訓中だ



「飛行機づくりはお金がかかって大変です」と、次期会計担当の小澤賢史君（機械2年）



佐野厚君（環境エネルギー2年）は、『鳥コン』フリーク。「次はもっと遠くへ飛びます」



唯一の環境情報学部（1年）メンバー、石川創平君。「自家製飛行機が空を飛ぶって、スゴイです」



安川淳君（機械1年）は「2年後10キロ飛行が目標」と力強いコメントをビシッと表明



機械システム1年の高杉宗一知君は、何気なく部室を訪れ、そのまま入部。「入って良かった」



機械1年の小池恵史郎君はモデルロケット免許3級を取得。もっと高く！が信条です



「前の年よりすばらしい横浜祭を！」…… “常に進化” が身上です

Y . F . A .



第10回MI-TECH横浜祭
ストリートパフォーマンスに集まった大観衆

顧問：吉崎真司（環境情報学科教授）
学生責任者：青山真（情報メディア学科3年）
部員数：35名

主な活動

- 4月 スプリングフェスティバル参加
- 5月 体育祭参加
- 6月 MI-TECH横浜祭
- 7月 ナイトラリー参加
- 8月 夏合宿
- 11月 MI-TECH祭運営補助
- 12月 チャリティーコンサート／納会
- 2月 春合宿
- 3月 追い出しコンパ／卒業式



小さなお客様も“DRP”

記念すべき第10回MI-TECH横浜祭は 特別企画目白押し

2006年6月3・4日の2日間に渡って行われた環境情報学部の学園祭、『MI-TECH横浜祭』。学部創設から10周年、横浜祭も第10回のアニバーサリーイヤーということで、例年以上の盛り上がりを見せた横浜キャンパスでしたが、この成功の立役者とも言えるのが、企画の決定から、運営の全てを取り仕切る彼ら横浜祭運営委員会、Y.F.A.の面々なのです。テーマを『大樹』と定めた第10回横浜祭ではさまざまな特別企画が用意され、当日はもちろん、準備はことのほか大変だったといえます。

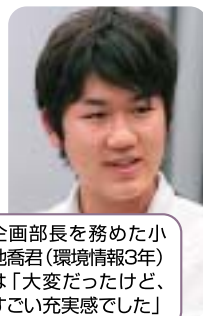
「目玉は、『地域密着型実践的環境教育特別展示』。オーストラリアの熱帯林復元プログラムや、日中共同沙漠緑化プログラムなど、環境情報学部の独創的な教育を紹介するもので、とくに地域の人にぼくたちの取り組みを理解してもらいたかった」と会長の青山真君（情報メディア3年）。「この大学のオリジナリティをしっかりアピールしたかった」と企画部長の小池喬君（環境情報3年）も強調します。ほかにも大人気の若手芸人による吉本お笑いLIVEや、『国際問題と環境』と題した池上彰氏による講演など、

硬軟取り混ぜて多彩な催しが繰り広げられました。

毎年の横浜祭で行われてきた“DRP（Dish-Return-Project）”もこの学部らしい企画として評判になっています。これは、模擬店で販売する食品にあらかじめ50円の食器保証金を上乗せしておき、食べ終わったあとで食器が回収所に返却された時点でその分を戻すという仕組み。環境に対する意識を少しでも高めてから帰ってほしい、というY.F.A.の願いが込められています。フリーマーケットやビンゴ大会、ストリートパフォーマンスなど恒例のイベントも大盛況でした。そして祭のフィナーレを飾ったのは、夜空に大輪の花を咲かせる打ち上げ花火。わき起こる来場者の歓声に、Y.F.A.メンバーたちの疲れも吹っ飛んだそうです。



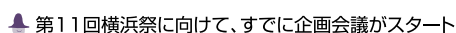
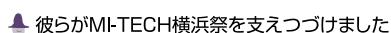
平成18年度会長を務めた青山真君（情報メディア3年）。「10周年にふさわしい学祭でした」



企画部長を務めた小池喬君（環境情報3年）は「大変だったけど、すごい充実感でした」



「TVやラジオ局で横浜祭をPRしてもらいました」と広報の倉井理佳さん（環境情報3年）



高橋瑠李さん(環境情報2年)は、ポスター作りに奔走。「次は広報部員。がんばります」

★ 平成18年度留学生研修会について

学生部 留学生分科会 主査
宇谷 明秀(システム情報工学科 助教授)

9月11日(月)、12日(火)の2日間、平成18年度の「留学生研修会」を行った。これは日ごろ交流の少ない世田谷・横浜両キャンパスの留学生同士、また彼らを支援する立場の我々教職員との交流を目的に毎年行っている研修会である。今年は千葉県富浦ロイヤルホテルに一泊し、我々教職員と留学生が共に参加するバレーボール大会・自主討論会・地引網などを行った。有意義で楽しい研修会になったと考えている。

参加人数、研修内容は以下の通りである。

参加人数

今年の研修会では、本学に入学したばかりの留学生との交流に重きを置き、参加対象を新入生とした。留学生会役員や上級学年(の希望者)には補助スタッフとして加わってもらった。研修会参加人数は、世田谷キャンパスの留学生16名、横浜キャンパスの留学生15名、教職員10名の計41名であった。

研修内容

<1日目>

①各チームに教職員1～2名が加わり、計6チームによる全員参加

のバレーボール大会を行った。このバレーボール大会は、その後の討論会で意見交換しやすい環境づくりを目的として行った。

②バレーボール大会の後、大学院留学生1名に、自身の留学目的やこれまでの留学生活での体験などについて話をしてもらい、それを受けて討論会を行った。盛り上がったバレーボール大会の後の討論会であったため、留学生同士、また我々教職員とも、様々なテーマについて話し合うことができた(大変有意義な意見交換の場となった)。

<2日目>

①1日目の討論会の内容をチームごとに発表してもらった。我々教職員にとって、留学生の留学目的や現在の悩みなどを理解する良い機会となった。

②この発表会の後、富浦漁協に移動し、全員で協力し地引網を行った。参加留学生のほとんどは地引網初体験である。彼らにとって良い思い出になったのではないかと考えている。

来年以降もこのような研修会を通して留学生との交流を深め、彼らの学生生活を支援していきたいと考えている。



●富浦町民体育館でのバレーボール大会



●富浦町多田良海岸での地引網

★ 悲願の「1部昇格」

アメリカンフットボール部 顧問
白木 尚人(機械工学科 助教授)

体育会「アメリカンフットボール部」は現在、部員68名が在籍し、関東学生アメリカンフットボール連盟(1～4部、医科歯科、7人制、計98校加盟)の2部Bブロックに加盟しております。昨年度は同じく2部で5勝2敗の成績を収め、創部31年以来の悲願である1部2部入替戦に出場致しましたが惜しくも1部の厚い壁に阻まれ、2006年度も入替戦出場を目指し日夜練習に励んで参りました。

平成18年12月10日現在

9/ 3(日) 対 宇都宮大	13-7	勝
9/17(日) 対 拓殖大	42-7	勝
10/ 1(日) 対 武蔵大	28-3	勝
10/14(土) 対 上智大	17-9	勝
10/29(日) 対 青山学院大	13-13	引き分け
11/11(土) 対 国士舘大	31-0	勝
11/25(土) 対 学習院大	6-7	負(勝ち点16 同率1位)
12/10(日) 対 神奈川大	15-7	勝(1部昇格)

さて、今年度は上記に示すように開幕から連勝を重ね、2006年度で同率1位となり2年連続で入替戦への出場が決定致しました。



そして、12月10日(日)に行われた入替戦(対神奈川大学)で15-7で勝利し、悲願の1部昇格を果たしました。後援会の皆様、大学教職員そして卒業生の皆様の、日頃の篤いご支援・ご声援の賜物であり、この場をお借りして御礼申し上げます。

皆様の応援が何よりも選手とチームを力づけることは間違いありません。アメリカンフットボールの試合をご覧になったことの無い方々にも、是非会場に駆けつけて頂き、応援の程、宜しくお願い申し上げます。

★ ふれあいの架け橋を! 第77回MI-TECH祭

第77回MI-TECH祭実行委員会 委員長
片桐 義尊(コンピュータ・メディア工学科3年)



平成18年11月24日から26日の3日間、第77回MI-TECH祭が世田谷キャンパスにて開催されました。今年のテーマは「虹」。77回目ということで「7」に関係のある言葉をとりあげたわけです。7色のカラフルな色あいは、一人ひとりの個性を表しています。また、虹のかたちが天空の橋に見えることから、人と人との間にふれあいの橋を架け、虹を見たときのように幸せな気分になってもらう、そんな学園祭にしたいとの願いがこもっています。

さて、第1日目は、上部・特殊団体の企画が目白押しで、開祭式から活気にあふれていました。今回初の試みである「出張講座」では、消費生活センターの方に来ていただき、「食」につい

て講義を実施。来場者は熱心に耳を傾けていました。

2日目には、毎年恒例の「DJ Festival」をメインステージで、「Jazz Festival」をサクラガーデンで行いました。また、アリーナでは時東あみさんを招いてのライブ。いずれも大変好評で、企画したわれわれはホット胸をなで下ろしました。

3日目は、「お笑いライブ」に、おぎやはぎ、バナナマン、桜塚やっくんという現在活躍中の芸人が出演しました。とくに桜塚やっくんは事前に一般の方々からの問い合わせが殺到。当日は多数のお客さまの笑い声がこだましていました。「後夜祭」では、アイドルライブこそ行いませんでしたが、ステージ前に集まったお客さまの笑顔をとくさん見ることができました。

今回は、開催中の3日間を通じて嬉しい好天が続き、大変多くの人々がキャンパスを訪れてくれました。テーマである「虹」を空に見ることはできませんでしたが、私たちの心には美しい虹が、はっきりと、そしてしっかりと架かりました。この経験を生かし、来年度もより多くの皆様に楽しんでいただける学園祭を作りたいと、今、決意を新たにしています。

◎課外活動短評

- ソフトテニス部 — 関東理工系大学ソフトテニス春季リーグ戦3部優勝、2部昇格。関東理工系大学ソフトテニス春季選手権 菊池学君(環境情報3年)・藤井祥吾君(都市基盤2年)組は第3位、岩村隼人君(環境情報1年)・小林哲也君(環境エネルギー1年)組はベスト8の成績を収めた。また、関東学生ソフトテニス秋季リーグ戦では6部優勝を果たした。(4回連続昇格中)。個人的な成績として、岡部剛広君(電子通信4年)、中村辰哉君(情報メディア4年)が全勝賞を収めた。
- ラグビー部 — 全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会予選において優勝し、全国地区対抗大会への12年連続17回目の出場権を獲得した。
- 写真部 — 第77回MI-TECH祭活動結果発表部門において制作・発表ともに最も優れており、学長賞に選ばれた。
- バドミントン部 — 関東大学バドミントン秋季リーグ戦(女子)で優勝し、6部1位通過により入れ替え戦を行った結果、5部に昇格を果たした。
- 準硬式野球部 — 新関東大学準硬式野球リーグ2006秋季大会において鈴木章太郎君(建築2年)が最優秀選手に選ばれた。

事務局便り



副学生部長 天野克也

いつも後援会活動に、ご理解、ご支援を頂いておりますことに感謝いたします。

私は、この4月に世田谷キャンパスの副学生部長を仰せつかりました。現在、本学の学生数は約6,330名です。これは、ちょっとしたまちに相当します。学生部は、この大学というまちで学生たちが円滑に生活をおくれるように、あらゆる面で支援する組織になります。学生部といえは、何か学生を管理する組織という印象がありました。そのような性格があることは否めません。しかし、本学では、建学の精神である「自由・公正・自治」のもとで、福利厚生、課外活動、生活指導、カウンセリング、顕彰、広報など、幅広く学生生活を支援していること、学生部に関わる学生をはじめ多くの学生たちもこれに応え、真摯に活動していること、教職員も学生の目線に立って熱心に取り組んでいること、を知りました。こういうと、何も問題はないという風に聞こえるかもしれませんが、一教員としての率直な感想です。これらの活動が、ご父母の皆様から組織されている後援会の大きな支援によって支えられているということも改めて具体的に理解した次第です。その事務局の一員として、本当に微力ですが、その活動に貢献できればと思っています。今後とも、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成18年度 **「大学と父母との連絡会」実施結果**

平成18年度の「大学と父母との連絡会」は7月15日(土)沖縄の那覇市を皮切りに9月30日(土)の東京・横浜地区までの間、全国24会場において開催されました。各会場の出席状況は下記のとおりで、各地において評議員の方々には運営等にご協力いただきました。

会場別出席世帯数(対象県以外からの出席者を含む)

開催地	開催日	会場名	出席世帯数
札幌	9月 2日(土)	札幌全日空ホテル	8
青森	9月 2日(土)	青森グランドホテル	5
仙台	9月 3日(日)	ホテル仙台プラザ	29
郡山	9月 2日(土)	ホテルハマツ	15
宇都宮	9月 3日(日)	宇都宮グランドホテル	32
水戸	9月 2日(土)	三の丸ホテル	32
東京	9月30日(土)	武蔵工業大学 世田谷キャンパス	556
横浜	9月30日(土)	武蔵工業大学 横浜キャンパス	230
高崎	9月10日(日)	ホテルメトロポリタン高崎	10
新潟	9月 9日(土)	ホテルイタリア軒	16
甲府	9月 9日(土)	ホテル談露館	32
長野	9月 9日(土)	ホテルJALシティ長野	14
富山	9月10日(日)	名鉄トヤマホテル	9
金沢	9月 9日(土)	金沢都ホテル	8
三島	9月 2日(土)	三島グランドホテル	36
静岡	9月 3日(日)	ホテルセンチュリー静岡	53
浜松	9月 2日(土)	オークラアクトシティホテル浜松	19
名古屋	9月 3日(日)	ホテルキャッスルプラザ	18
神戸	9月10日(日)	神戸メリケンパークオリエンタルホテル	4
広島	9月 9日(土)	ホテルニューヒロデン	10
高知	9月 9日(土)	ホテル日航高知 旭ロイヤル	6
福岡	9月 3日(日)	ホテル日航福岡	32
鹿児島	9月 2日(土)	ブルーウェーブイン鹿児島	11
那覇	7月15日(土)	ホテルロイヤルオリオン	7
合 計			1192

都道府県別出席世帯数

都道府県名	出席世帯数	前年度出席世帯数
北海道	8	4
青森	5	2
岩手	1	2
宮城	22	23
秋田	4	8
山形	4	6
福島	23	24
茨城	53	46
栃木	41	34
群馬	9	16
埼玉	80	49
千葉	64	50
東京	212	187
神奈川	352	345
新潟	18	19
富山	9	10
石川	9	12
福井	0	2
山梨	40	38
長野	16	24
岐阜	2	4
静岡	123	108
愛知	15	17
三重	4	1
滋賀	0	0
京都	0	1
大阪	1	3
兵庫	2	2
奈良	1	1
和歌山	0	0
鳥取	0	0
島根	2	2
岡山	1	0
広島	8	9
山口	0	0
徳島	3	2
香川	0	4
愛媛	2	3
高知	6	1
福岡	22	20
佐賀	3	3
長崎	3	1
熊本	1	1
大分	5	12
宮崎	3	1
鹿児島	8	1
沖縄	7	4
合 計	1192	1102